

経営比較分析表（令和4年度決算）

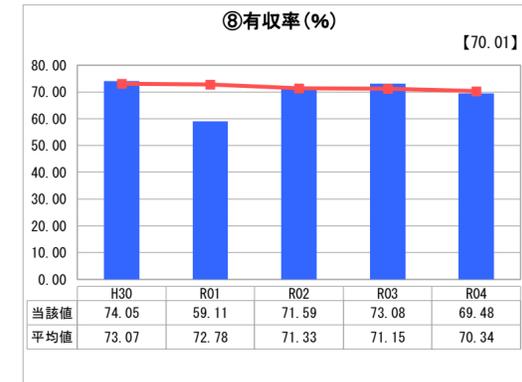
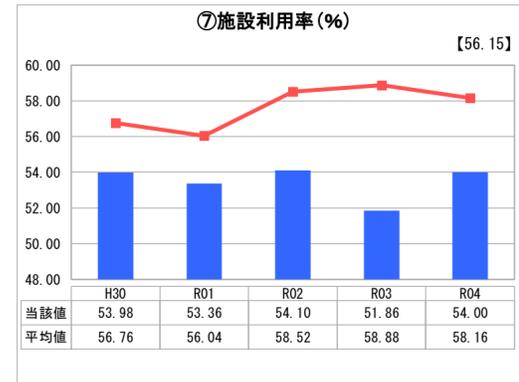
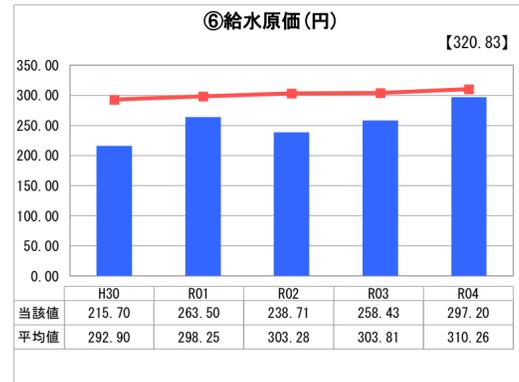
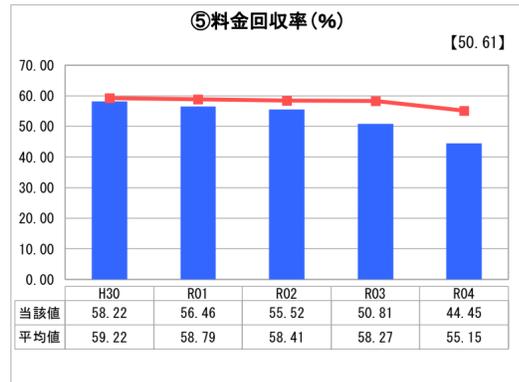
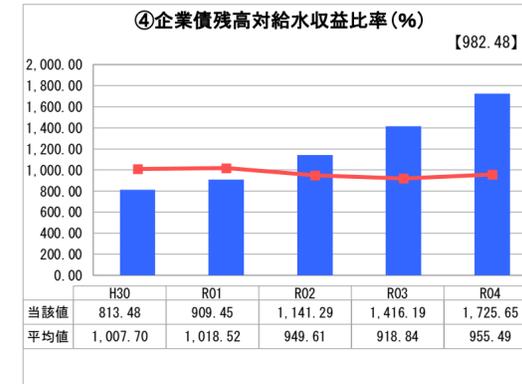
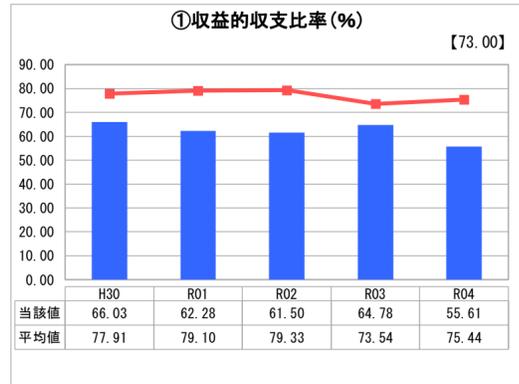
福井県 池田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	89.89	2,035	

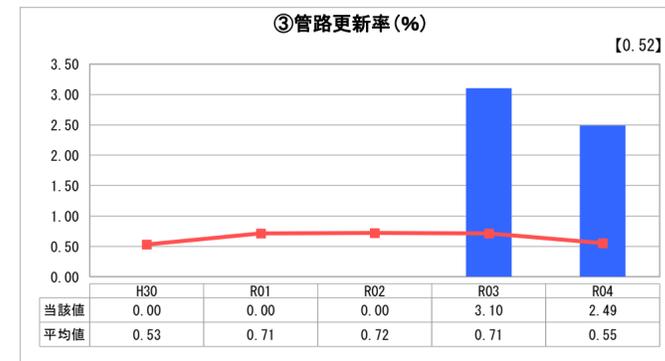
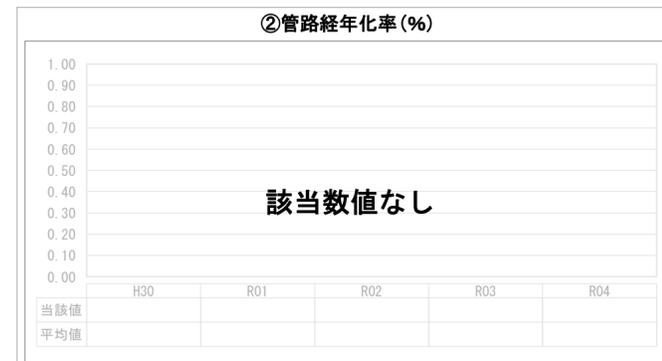
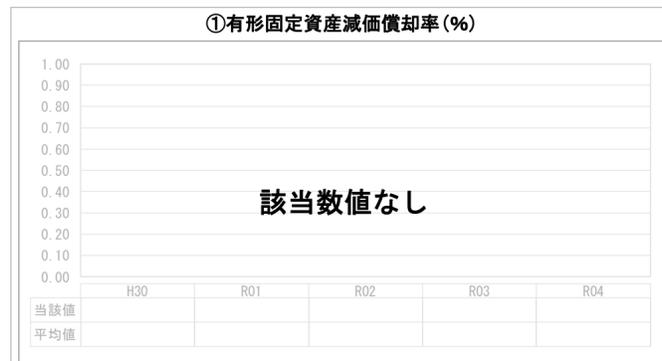
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,327	194.65	11.95
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,063	28.70	71.88

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①「収益的収支比率」を見ると単年度の収支は赤字である。前年との比較では14%ほど減少しているが、消費税還付額の増によるものであり、新規加入者数の増により営業収益は前年比3.2%の減となっている。④企業債残高対給水収益比率は配水管更新工事に伴う企業債借入額の増に伴い、前年比21.9%の増となっている。⑤「料金回収率」は企業債償還額の増による給水原価が上昇し、前年比12.5%減であり、地方債償還を一般会計繰入金で賄っている状況である。⑥給水原価については類似団体に比べ低い数値となっているが、使用者減少による有収水量の減少、老朽管更新の費用増加も今後見込まれるので経費削減を進めるために効率の良い整備を計画している。⑦施設利用率は前年比4.4%回復し例年並みとなった。⑧有収率は前年比4.9%減少した。

2. 老朽化の状況について

池田町水道事業の整備は、昭和56年度から平成元年度にかけての第1期、平成8年度から平成19年度までの第2期に大きく分けられる。管路については塩化ビニル管を採用しているため耐震率が低い。このため、簡易水道施設整備費国庫補助（生活基盤近代化事業）を活用し、令和元年度より老朽管を耐震性のある管種で更新することで耐震性を向上を図る。

全体総括

近年、有収率に大きな変動はない。その要因は、管路の更新と冬期間の凍結漏水に対する注意喚起によるものと考えられる。今後も有収率の向上に向け、漏水箇所の早期発見・復旧を図る。一方、管路更新実施に伴う企業債借入額増に伴い、総収益のみでの経営が困難となり、一般会計からの繰入金が必要な状況となっている。